

平成26年度第2回安城市市民参加推進評価会議 議事録

日 時：平成26年12月19日（金）10：00～11：00
場 所：安城市役所本庁舎3階 第10会議室
出席委員：鳥居会長、大野副会長、柴田委員、山内委員、北村委員、草苅委員、
古濱委員、小森委員、池端委員、小鹿委員、昇委員、（11人）
欠席委員：深津委員、石川委員、岡田委員
事務局：太田部長、野本課長、澤田係長、鈴木、磯田
傍聴者：1名

（事務局）

時間になりましたので、はじめさせていただきます。

本日は、深津委員、石川委員、岡田委員からご欠席のご連絡をいただいておりますが、ただいまの出席委員数は安城市市民参加条例施行規則第11条第5項に規定します委員の半数以上に達しており、審議会は成立しております。

それでは、ただ今から平成26年度第1回安城市市民参加推進評価会議を開催いたします。

はじめに市民憲章の唱和を行いますので、ご起立をお願いします。

なお、市民憲章については、机上に印刷したものがございますのでご覧ください。

『市民憲章唱和』

1 会長あいさつ

みなさん、おはようございます。本日の議題になっておりますが、市民参加の評価方法が変わるということで、どのように変わるかという観点をもって、審議していただければと思います。よろしくをお願いします。

（鳥居会長）

それでは、議事を進めさせていただきます。「議題（1）市民参加の評価方法の変更について」、事務局より説明をお願いします。

2 議題

(1) 市民参加の評価方法の変更について

<資料1、2、3、4、5、6に基づき説明>

(鳥居会長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、質問がありましたらお願いいたします。

(池端委員)

資料3について、委員に配布されている資料には記入例が入っていません。今、説明を聞いて理解できましたが、できれば記入例が入った状態で事前に郵送してくれると委員のみなさんにもわかりやすくなるかと思います。

(事務局)

記入例を記載したものを委員のみなさまに送らせていただきますので、ご確認いただきたいと思います。

(小森委員)

資料1(1)市民参加推進評価会議での評価の対象について、(5)その他、計画の進捗管理等は外すということでしたが、資料としては、まとめて提出していただけるということによろしいですか。

(事務局)

はい、そうです。

(大野副会長)

資料3(2)パブリックコメントの意見の反映について、「案を修正した」、「案を修正しなかった」、「意見がなかった」がそれぞれ何件とありますが、意見がなかったのになぜ件数になるのかと疑問でしたが、先ほど、反映すべき意見がないと説明がありました。これは、このままだと誤解を受けやすい表現だと思いますので、表現を変えた方が良くかと思います。

(古濱委員)

資料4について、評価・意見の欄に不適切であるとありますが、不適切であるという事業を始めますか。その辺りの文言が納得いかないと思います。

(小鹿委員)

資料3の調査シートと資料4、5の事前評価シートとの関連が必要だと思います。どのように判断するのが、この調査シートから見えてこないです。例えば、市民参加の組み合わせは適切かというところで、ワークショップを20人で行ったとい

うのを見たところで、それが適切かを判断できないと思います。過年度の実績と比較してどうか、市民参加の工夫をしているのかという項目があって、初めて評価できるのかなと思います。

また、評価の仕方について、おおむね適切というのは、4分の3程度の達成度という感覚でしょうか。富士見市だと、高・中・低という表現になっています。インターネットで検索をして、適切である・おおむね適切である・不適切であるという表現の市が多いなと思いましたが、他市の真似ではなく、パーセンテージで表す等、細かい評価の仕方が必要になってくると考えております。

そして、事前評価シートをしっかりとやらないことには、そこでフィードバックできないと思います。

(事務局)

パブリックコメントの意見の反映についてですが、おっしゃるとおりだと思いますので、分かりやすい表現に変更させていただきます。評価の方法についてですが、市民協働課から調査シートを各担当課に照会していきますので、担当課においてもむやみに仕事を増やすことは避けたいと思っています。そうは言ってもある程度の内容を聞かないと評価ができないということで、他市を参考にしながら、このような内容に整えました。

しかし、ご指摘もいただいておりますので、評価の区分について、具体的な説明等を補えるのかを含めて検討させていただきたいと思います。他市の状況を見ても、一定の基準を基に市民参加を評価するのは難しい部分もあると思います。冒頭の説明でもありましたが、パブリックコメントの件数が多ければ評価できるといったものではないと思いますので、まずは、各課が市民参加の意識を持って条例に基づいて取り組んでいければと思っております。ただ、会議でみなさまにご意見をいただく以上は、ある程度均一に評価できる仕組みも構築すべきだと考えておりますので、評価について少しずつ研究していきたいと思っております。

(大野委員)

一つ確認をさせてください。資料4、5の1行は、資料3の一枚に相当すると思っております。中には、6つも資料3を受け取る人がいるということですか。

(事務局)

はい、そうです。

(鳥居会長)

今6つに限定されていますが、間違っていないですか。

(事務局)

失礼しました。例えば、平成27年度の市民参加の予定が各課で10事項あれば、資料4の評価シートは10事項になり、資料3の調査シートが10枚みなさまの手元に送られてくることになります。

(大野委員)

各課で行う市民参加について、全ての課が参加するのですか。

(事務局)

例えば、来年度計画の策定をする場合、その計画の策定に対して、ワークショップ、策定委員会、パブリックコメントを行うことがよくありますが、その組み合わせが良いのか等を資料からそれぞれの委員さんに判断していただいて、まずこの評価シートを記入していただきたいです。そして、委員のみなさまからいただいた意見を基に、審議会としての意見として取りまとめて、それを担当課へフィードバックしていくことになります。

(大野委員)

市民参加評価委員という方がいて、その方が全ての課の市民参加の事項を受け取って、評価をするということですね。

(北村委員)

みなさんがこの評価委員になります。

(大野委員)

市民参加をする課が評価シートを書くと誤解していました。

(事務局)

この評価シートは、委員のみなさまにご記入いただくものになります。

(草苅委員)

たくさん作業をしなければいけないところを、簡略化し少なくしてくれていることは分かります。

しかし、資料3の調査シートの様式ですが、備考欄というのが無くなっており、その事業の特殊な部分を書き込むことができなくなっています。聞き取りをすれば、ここはどうか聞き取ることができますが、私たちは、単純に調査シートを見て評価することになると思います。せっかく一生懸命事業を進めているのに、備考欄もなく、その人たちの思いもでてこないものを評価するのは申し訳ない気がします。

(古濱委員)

いろいろな意見があると思いますが、この何年間か委員をさせていただいて、ここまでよくきたなと思います。これを始めるにあたって、パーフェクトというのは

ないと思います。100%上手いかなかったとしても、評価の流れを作るための期間だと思えば、すごく評価できることだと思います。ただ、先ほど意見がでていた文言等については、チェックができるようにすれば良いかなと思います。今回は、次のステップに繋がるような1年にしようという想いで、小さいことを気にしすぎでいたら、大きく進めないと思います。

(鳥居会長)

先ほどから意見がでていますが、できるだけ分かりやすい形にしていきたいと思います。意見として出たことは、事務局で細かく見ていただいて、できるだけ意見に沿うように訂正をしていただければと思います。これから各課で調査シートを記入して、その書類がこちらに回ってきますので、それを見たときにどれだけやりやすくなっているかを期待したいと思います。

(山内委員)

大分前進はしていると思いますが、過去から、どの担当課でどんな分野が、どう市民参加が進んできたのかという観点は少し欠けていると思います。いっぺんに変更するのは難しい話だと思いますが、2回目になると、どの分野がどのように進んでいるのかも評価としてあっても良いと思います。この辺りも検討していただければと思います。

(小森委員)

パーフェクトのやり方はないと思いますので、やってみるしかないと思います。1回目の評価をやってみると委員の中でも意見がバラつくと思いますが、やっていくうちに、ある方向に集約していくと思います。なので、あまり構えないで、試行的な形でやっていけばよいと思います。また、各課が他の課と横にらみできて、各課として市民参加をどうしていかないといけないという参考の情報くらいに捉えてもらう程度にした方が良いのかなと思います。

(事務局)

評価のバラつきというのは危惧するところでございます。事前に委員のみなさんから評価していただいたものを、この会議の中で目揃いし、その目揃ったものを担当課に投げていければ良いなと思います。

(昇委員)

市民参加は、総務省でマニュアルがあって行っていくという類のものではなく、それぞれの自治体が自治事務として取り組む事例ですから、他の自治体のやり方を学びながら、トライアルアンドエラーで、徐々に改善していけば良いと思います。

最初から100点満点のものができるとは思わないので、まずはやってみることが大事だと思います。ただ、やるときにこの委員会ででた意見の中で、取り入れられるものは取り入れて、ベターなものを作っていければと思います。

もう1点、パブリックコメントで意見がでた方が良いのかどうかという話がでていました。いろいろな考え方があると思いますが、私は、情報公開制度と一緒にだと思っています。情報公開制度は、あまり自治体に対して信頼がないと起こってくるものだと思います。

パブリックコメントの件数が多ければ良い、少なければ悪いというのは間違っていると思います。多分、日本のパブリックコメントで一番多いのは、滋賀県の琵琶湖にブラックバスを生かしておくことは良いのかというもので、賛成、反対の意見が同じ文面で日本語と英語でたくさんきていました。件数は多かったです、それが本当に県民参加になったとはおそくならないと思います。多ければ良い、0件だと悪いというものではないと思います。ただ、件数が0件の時の解釈が難しいと思います。政府を信頼しているから何も言わないという解釈、何を言っても無視するから何も言わないという場合もあります。今の段階では、どちらの解釈なのかは分かりません。これをずっと繰り返していく中で、それぞれのパブリックコメントの意見の分析ができるような形に徐々にしていければ良いと思います。政治勢力で全く同じ事象でも、解釈によって全く逆に捉えることがあります。市民参加も同じで解釈の仕方によって全く反対の解釈ができます。政治家としては、そうしていかないといけないかもしれないですが、行政としては、市民の比較多数は本当のところどう考えているのかを掴めるような分析をするべきだと思います。すぐには無理だと思いますが、徐々にトライアルアンドエラーで改善していけば、市民参加が意味のあるものになっていくと思います。

(鳥居会長)

メンバーが10人いれば、10人のそれぞれの意見があると思います。意見が全てではなく、その中から何を拾うかが、まさに私たちの仕事だと思います。今後、私たちがどう評価をしていくかがこれからの課題の一つになると思います。その他意見はございませんか。それでは、今日の議事を終わらせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。いただいたご意見をシートの中に反映できるように検討させていただきます、議事録と一緒に様式を送らせていただきますので、ご確認をお願いいたします。

会議の中でも、まわしながら修正していくという大変心強いご意見をいただきま

したので、またご意見をいただきながら、ブラッシュアップしていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(大野委員)

蛇足の話になりますが、資料4の市民参加予定委員事前評価シートについてですが、市民参加予定委員ってどんな委員なのかなというところが誤解のスタートだったので、分かりやすく表現にしてほしいです。例えば、市民参加対象項目（予定）事前評価シートにし、下に評価委員氏名と書くと分かりやすいかと思います。

3 その他

(事務局)

本日は、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。
次年度に向けて様式を少し修正させていただきながら進めていきたいと思っております。

今後のスケジュールにつきましては、平成27年3月17日（火）午前10時より第3回市民参加推進評価会議において、次年度の市民参加予定の評価をしていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の資料及び議事録を安城市公式ウェブサイトへ掲載いたしますので、ご了承をお願いします。

以上をもちまして、平成26年度第2回安城市市民参加推進評価会議を終了いたします。ありがとうございました。

現在、愛知県では、交通死亡事故多発警報が発令されております。お帰りの際は交通事故に遭われないように気をつけてお帰りください。